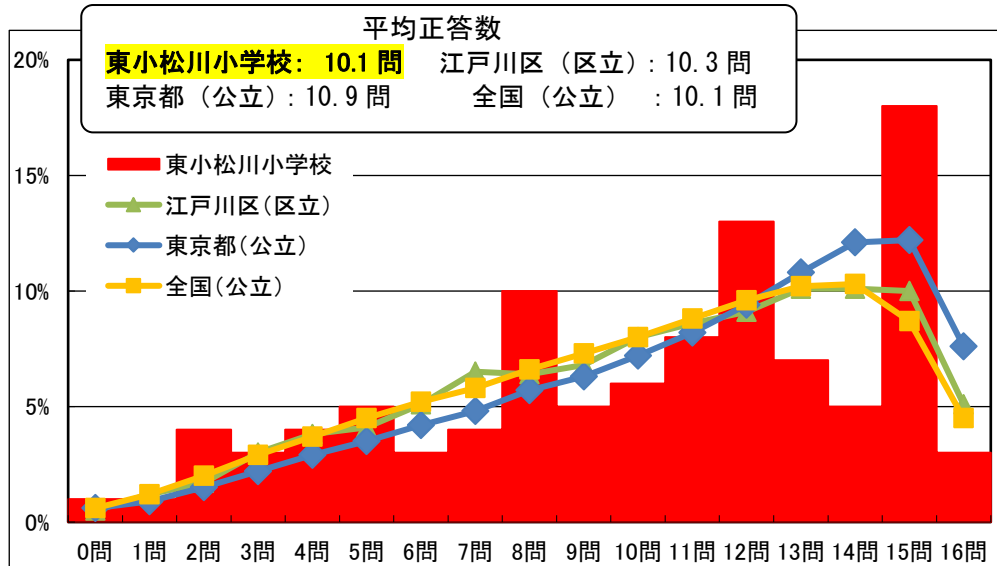


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 東小松川小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

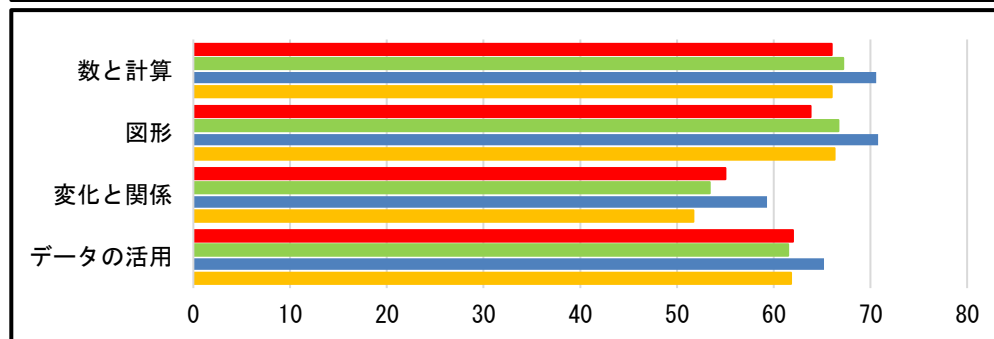
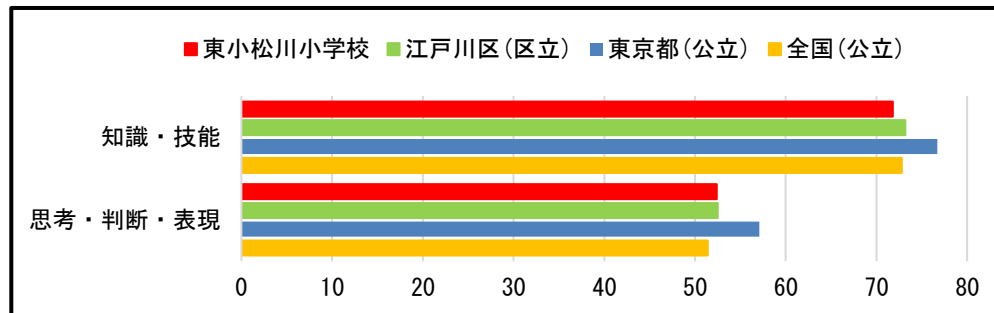
算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16 問	B層 12~13 問	C層 8~11 問	D層 0~7 問
東小松川小学校	26	20	29	25
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

【平均正答率の差】

東小松川小学校	63%
江戸川区 (区立)	64%
東京都 (公立)	68%
全国 (公立)	63.4%
都との差	-5ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

本校の平均正答率を領域別に見ると、「C 変化と関係」は全国より平均正答率が若干上回っているものの、「B 図形」は全国や東京都より平均正答率が低く、課題であることが明らかになった。「思考・判断・表現」の分野も全体的に正答率が低く、課題となっている。また、全体的に、都の平均より正答率が低く、5ポイント差がついている形となる。

改善策として、「図形」領域においては図形を構成する要素や図形の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察し、理由等を言葉や数値を用いて記述する力を育てていく。またどの単元でも、問題の解決方法を自分の言葉でしっかりとノートに書き、友達と考えを伝え合うことで、思考する力や表現する力を伸ばしていけるようにする。